

第25回川崎市文化芸術振興会議 会議録（摘録）

- 1 会議名 第25回川崎市文化芸術振興会議
- 2 日時 平成23年11月11日（金）
16時30分から18時30分まで
- 3 場所 川崎市役所本庁舎東館2F 市民・こども局会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 澤井委員、垣内委員、林委員、野畑委員、渡辺委員、城谷委員、岩森委員、猪口委員、高田委員
 - (2) 事務局 市民・こども局 山崎局長
市民文化室 中島室長、町田課長、広岡担当係長、沼田職員
- 5 議題 新任委員の委嘱式、会長・副会長の選任、文化芸術振興会議の経過説明
- 6 公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名

【委嘱式】

山崎市民・こども局長より委員全員の名前を読み上げ、委嘱状を手渡す。
その後、委員による自己紹介。

【会長・副会長の選任】

委員より、文化芸術振興会議立上げからの経過や、現在取組んでいる文化アセスが途中であること等から、会長に澤井委員、副会長に垣内委員を引続き推薦する意見が出て、全員一致で了承される。

【文化芸術振興会議の経過説明】

事務局より、平成17年からの文化芸術振興会議の取り組み状況、文化芸術振興計画の策定経過、文化アセスの特徴などについて説明を行なう。なお今年度の文化アセスについては、引き続き「岡本太郎美術館」「ガラス工芸振興事業」の2事業を対象に進める旨を確認。

【議論内容】

- 澤井会長 「アセス」というと、直訳は「評価」となるので一般には批判的なニュアンスがある。川崎市の文化アセスはポジティブ評価であり、前向きな建設的な意見を出してきており、提言という色合いが強い。
- 事務局 市民局以外の事業を評価する場合、必ずしも協力的な反応の部署ばかりではない。
- 高田委員 どのような事業を選んでいるのか。
- 澤井会長 税金を投入されている事業です。ただ、市内のガラス工房は完全に民間なので、正確には税金が投入されている事業のみが対象になる。
- 垣内委員 市民局の所管事業にこだわらず、文化的な施策にはアセスをすることで、施策

の幅を広げる手助けをしている。

高田委員 条例の趣旨としては、単に文化・芸術の振興を目指すものではなく、これらを広く捉え、その振興を通じて、川崎の街づくり、街の活性化に繋げる主旨のものと理解すればよいか。

垣内委員 滋賀県長浜市で、第3セクターがガラス工芸を復活させた事例があり、その成功要因のひとつに文化を核にしたまちづくりのマネジメント手法がある。

猪口委員 企業人時代にはリスクアセスをかなり手掛けたが、文化アセスはどのように行なったらよいか。アセスの対象者とすれ違わないように気をつけたい。

澤井会長 文化アセスにはマニュアルがある。最終的には客観的な基準で評価を行なう。

岩森委員 ガラス工芸の集積度は高いのか。全国のガラス工芸と比較するとどうか。

事務局 市内8ヵ所に、ポツポツとある程度で、行政側からお声掛けをして検討のテーブルについてもらっている状況である。

渡辺委員 絵描きが子どもに絵を教えるのに似た構図だ。東京ガラス工芸研究所は純粋な教育機関なので、まち工場的なガラス工房とは一線を画す。ガラス工芸振興施策に関しては、市が予算を出している施策部分についてのみ評価を行なうことになる。

事務局 川崎ガラス懇談会では、商品開発も手掛けている。すべて合わせて予算は700万円で動いている。

澤井会長 アセスの提言としては、予算をもっと出すように行政をプッシュする形になるかもしれない。市長への提言内容については、事務局にフォローアップをしてもらっている。

高田委員 一般に提言作りだけに追われてしまう傾向にあり、官僚が好きなレポート作りにならないようにしたい。

野畑委員 相手があることなので、言葉使いにも気を遣い、いたづらに傷つけたり刺激したりしないようにしてきている。提言は公開されてもいる。今年ガラス工芸事業をアセスするにあたっては、既に何らかの反応があるのか。

事務局 経済労働局の職員が、アセスでどんな指摘が来るのかと、多少ナーバスになっている部分はある。

林委員 ガラス工芸振興事業では、はじめて市民局以外の事業でアセスに着手する。経済局職員と事前にお会いして、彼らの事業の目指す方向性について、事前に我々が勉強しておきたい。また、こちら側のアセスのスタンスについても、できれば直接ご説明しておきたい。

澤井会長 アセス対象は100%行政のものだけではなく、民間企業や教育機関、市民が実行委員会で行なっているものもある。市長への答申という形なので、すぐに結果につながるという性質のものではないが、アセス結果に対するリアクションについては事務局から報告をしてもらう形にしている。昨年アセス結果に対する反応はどうか。

事務局 昨年の「しんゆり映画祭」「アルテリッカしんゆり芸術祭」は、いずれも大学や地域団体、市民も参加する実行委員会方式で行なっている事業である。そのためアセス結果をどのように実行委員会に伝えるべきか、担当職員はかなり頭を悩ませた。補助金・負担金という形で税金を投入している事業なので、その意味を考え

てもらふ形をとったようだ。

「アルテリッカしんゆり芸術祭」に関しては、アセス結果を受けて、ボランティアの参加がかなり進んできた。秋に行われる「アートマネジメント講座」の修了生が、翌年の芸術祭のボランティアスタッフとして関わるサイクルができつつある。

猪口委員 きちんと目標を立て、その達成度を図り、次につなげるという、PDCA サイクルが重要だと考える。

事務局 文化アセスと平行して、平成 24 年度は文化芸術振興計画の改訂にも着手したい。こちらについても委員の皆さんのご意見をいただきたい。

城谷委員 この委員会は文化アセスだけが役割かと思っていた。

澤井会長 文化アセスについては条例で定められた事業で、必ずやらなければならない取組み。文化芸術振興計画の改訂については、市長からの諮問に対して検討するというスタンスでよい。その他にも、アワードの創設などの課題もある。また、昨年のアセス報告書前文でも触れたが、ミュージア川崎シンフォニーホールの早期復旧も気になるところである。

今後のスケジュールはどうなっているのか。

事務局 年内に一度現地の視察に行きたい。A、B、2 グループに分かれ、それぞれのご専門を活かしながら評価をしていただきたい。できれば視察は両方にご参加いただければと思う。スケジュールや参加グループの希望は、後日事務局からご連絡をさせていただき調整をしたい。

高田委員 A、B グループにより、それぞれのメンバーを中心に評価の纏めを行なうものの、最終評価へ至る作業は、全員参加が前提になると理解する。

澤井会長 意見書を両方書くのは大変なので、参加したグループの対象には責任を持ってもらふ形としたい。